

## 2016年度の主な事業報告書 (2016年4月1日～2017年3月31日)

### ■ 事業実施の概要について

箕面の山麓保全を推進する中間支援組織であるNPO法人として機能強化につとめ、箕面山麓保全アクションプログラムに基づき、山麓部がもつ公益的な多面的価値を最大限発揮するように多彩な活動を活発に行いました。

中核事業である「山林所有者との関わり強化」では、山林所有者に代わって山林整備を行うボランティア派遣を着実にいった他、「資金の循環の仕組みづくり」では、阪急阪神ゆめまち基金の助成金を活用して、DVD募金を始め、「山麓ファンド」への募金活動を積極的に進め、3年連続で募金額が100万円を超えました。※ふるさと寄附金を含む

「対話と協働のネットワーク構築」では、国有林内外で国・府・市などの行政との「協働」の取り組みを推進し、シカによる食害を防止する活動や利用者の安心・安全に関わる活動に注力しました。「情報の共有化とPR・広報の強化」では、ホームページ(山なみネット)で活発に情報発信した他年4回、「山なみ通信」などのニュースレターを発行し配布しました。

「人材・組織の育成」では、人と自然の入門講座である「みのお森の学校」などを開催した他、山麓学習・自然学習を担う人材育成講座も開催しました。

「調査・研究」では、ナラ枯れ被害防止グループによる活動を積極的に行った他、森のセラピー事業の研究を着実に行いました。

「ファンド助成」では、山林所有者や市民団体への広報や申請書の配布、受付、相談、チェックなどの助成サポート業務に注力し、新規の自然緑地同意者が増えるなどに成果が得られました。

※自然緑地: 5ページに注記

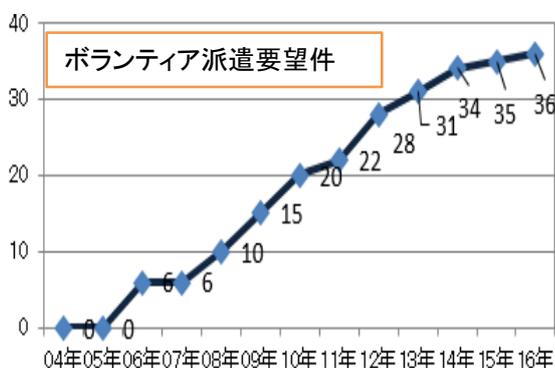
### ■ 中核となる事業について

#### 1. 山林所有者との関わり強化

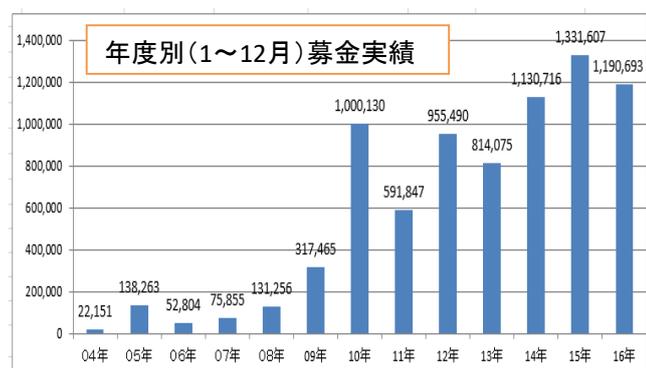
山林所有者の悩み相談会を年2回行った他、個々の山林所有者の問い合わせにキメ細かく対応しました。山林整備サポート(ボランティア派遣)件数は、36件となり前年より1件増えました。

#### 2. 資金の循環の仕組みづくり

2016年(1月～12月)の募金額は1,190千円となり減少しましたが、3年連続で100万円を超えました。「箕面の森の守りびと」(山麓ファンドサポート個人会員)は258名となり、58名増えました。



※2016年度: 36件 (ファンド助成73件中)



\* 10年度は個人の大口募金50万円を含む

#### 3. 対話と協働のネットワーク構築

明治の森箕面自然休養林(国有林)では、市民団体が中心となり、国、府、箕面市などの行政委員と市民団体委員との対話と協働を前提として、年7回の例会を開催した他、シカによる食害防止や生物多様性の保全など、多彩な活動を活発に行いました。

### ■ 外部環境の変化

#### 1. 里山がかかえる今日的な課題

かつては地域住民が共同で管理し、入会慣行による共同利用に支えられてきた箕面の里山、現在でも、寺や神社、自治会、水利組合、村の共有名義で所有する山林は、地域の共有財産であるという意識は高いが、経済的な価値が無くなったことから、個人の山林所有者の山に対する愛着は低くなっており、山林を手放したい(売りたい、寄付したい)という要望が多くなっています。

里山は地域の共有資源であることから、行政が売却や寄付の受け皿になることが望ましいのですが、境界確定(測量)の必要性や取得する価値などの課題があり、困難な状況です。

このまま放置しておく、故人名義の放置林が増えたり、相続により更に山林が分割され、誰が所有しているか分からないなどの事態が危惧されています。

また、ナラ枯れ被害木の伐倒燻蒸処理の際に、市は地権者の了承を得るための連絡を行っていますが、地権者に連絡ができないなどの課題も発生しています。

公益的な行為の際には使用権を認める条例を策定するなど、改正森林法を活用した新たな仕組み作りが必要であると考えています。

山林を寄付した場合でも山林所有者に譲渡所得税がかかり負担が大きいことから、公益社団法人大阪自然環境保全協会の協力による寄付の受け皿作りを行いました。

## 2. 増えすぎたシカによる食害やナラ枯れ被害の拡大による自然災害のリスク

近年、大阪府でも集中豪雨(1時間降水量50mm以上)の発生頻度が増加しており、土砂災害などの自然災害の発生リスクが増大しており、2014年夏には箕面市内でも浸水被害がありました。一方で、増えすぎたニホンジカの食害による森林の下層植生の劣化、カシノナガキクイムシによるナラ枯れ被害によるブナ科樹木の枯損など、森林の持つ水源涵養や土砂災害などの防止機能の低下が見られ、私たちの暮らしにも影響しかねない自然災害の発生リスクが増大しています。

## 3. 「協働」の取り組みが求められる山麓保全活動

森林の持つ公益的で多様な機能を最大限発揮するためには、シカによる食害対策やナラ枯れ被害防止などの対策が必要ですが、課題解決に対して行政単独で行うことは困難な状況です。

里山が直面する課題に関して、情報の共有化や異なる意見や立場からの対話ができる場づくりが大切です。国・府・市などの行政や多くの市民がお互いの情報や意見を持ち寄り、協議会や連絡会を開催するなど、様々な場面での「協働」の取り組みが必要になっています。



シカ害により裸地化した山頂



シカ害から守る植生保護柵の設置



ナラ枯れ対策木に防虫ネットを貼付

### ■ 内部環境の変化

#### 1. 拡大する活動エリアや領域

山麓保全アクションプログラムでは、森林の持つ公益的で多様な機能を最大限発揮することを目的にあげており、森林の保全や活用に対する課題は、山麓・山間部に共通する課題であることから、活動エリアを山麓部および山間部に拡大しています。

また、森林の持つ機能を最大限発揮するためには、活動が十分でない領域もあり(環境教育など)、新たなボランティア組織が立ち上がり、新たな活動が始まるよう、山麓保全活動を推進する中間支援組織の立場で、支援することが求められています。

#### 2. 持続可能なNPO法人の運営をめざして

NPO山麓委員会は、山麓ファンドからの受託事業として、ファンド助成に関わる事務を中心にPR・広報、山麓保全交流、山林所有者関連、ファンド募金、人材育成や調査研究事業などを行っており、あわせて府から箕面ビジターセンター企画運營業務を受託して活動を行っています。

法人を運営するためには、活動に関わる直接的な経費の他に、管理のための人件費や家賃消耗品費などの間接費が必要であり、税金も支払う必要があります。

2016年度、箕面市から山とみどりの市民イベント事業を受託したことから、消費税の課税対象となる収入が1,000万円を超えました。2018年5月には、約40万円の消費税を支払う必要があり納税のための財源を捻出するためには、収入を増やすか、費用を削減するかなどの財務体質の改善が急務となっています。

### ■ 個別の事業の実施状況

#### 1. 広報事業(情報の共有化とPR・広報強化の事業)

(インターネットを利用した広報)

##### 1-1 ホームページ(山なみネット)による広報強化、及び情報公開

・精力的に「ブログ」に記事を掲載した(年168回)他、トピックスやイベントカレンダーを更新するなど、タイムリーな情報発信に努めました。

- ・山麓保全ファンドの助成結果やNPO山麓委員会の活動情報などの情報公開を行った他、箕面ビジターセンターのイベント情報や森の安心・安全情報などを発信しました。

### (紙媒体などによる広報)

#### 1-2 全世帯向け広報

- ・箕面市全世帯向け広報紙「もみじだより」の広告掲載を年2回(8・2月)行い、「山麓ファンド」による山林所有者や市民団体への活動助成、ファンド募金の他、森の学校など人材育成事業について広報しました。

#### 1-3 ニュースレターの発行

- ・広く山麓保全活動の情報発信を図るために、ニュースレター「みのお山なみ通信」を年4回発行しました。(4・7・10・1月)
- ・箕面ビジターセンターだよりも、同様に年4回発行し、その他のイベントチラシなどとあわせてNPO山麓委員会会員や「箕面の森の守りびと」山麓ファンドサポート会員などに郵送しました。

### (イベントを通じた広報)

#### 1-4 イベントの開催・出展

- ・4月に千里中央で市民イベントを行った他、10月には箕面市から山とみどりの市民フェスティバルを受託して、箕面公園瀧安寺前広場をメイン会場として、箕面駅までの会場で行いました。

また、森の音楽会(2回)や滝道の森のふれあい広場などで、山麓保全活動の紹介や募金活動などを行いました。



山とみどりのフェスティバル

## 2. 山麓保全交流事業(情報の共有化と意見交換による活動の場づくり事業)

### 2-1 明治の森箕面自然休養林管理運営協議会の活動

- ・同協議会(国、府、市、森林総研等の行政委員と11の市民団体で構成)では、NPO山麓委員会事務局を担い、年7回の例会を行った他、年6回の分科会(連絡会)を行いました。
- ・対話と協働の仕組みの中で、行政、市民団体の意見交換や情報の共有化を図りながら、シカの生息状況情報の共有化や植生調査や定点カメラによるモニタリング、「箕面の森の案内板」の補修の他、エキスポの森や政の茶屋園地にベンチ10台を設置するなどの活動を行いました。

## 3. 山林所有者関連事業(山林所有者との関わり強化事業)

### 3-1 山林所有者への対応

- ・山林所有者の山林整備活動に対する公益信託「みのお山麓保全ファンド」による助成は、2016年度(2・8月期)は、74件6,736,400円でした。 ※2016年2月63件、2016年8月11件採用 ※2件の山林所有者に、新規に「自然緑地」に同意していただきました。

### 3-2 山林整備サポーターの派遣

- ・高齢化が進む山林所有者に代わって山の手入れを行う「ボランティア派遣」は、36件(前年より1件増)の所有者から要請があり、のべ254人のボランティアが山の手入れの活動を行いました。

### 3-3 山林所有者の”悩み相談会”の実施

- ・山林所有者の”悩み相談会”を2回(8月・2月)行い、4件の相談を受けました。相続に伴う相談が多く、1件は新規に自然緑地に同意していただきました。
- ・2件は山林を寄付したいという要望であり、森林簿の調査を含めて、個別対応を継続予定です。

## 4. 活動を支えるための募金活動(人と資金の循環の仕組みづくり事業)

### 4-1 「山麓ファンド」への募金活動

- ・2016年(1月～12月)の募金額は、1,190,693円(箕面市ふるさと寄附金401,000円を含む)でした。前年より減少しましたが、3年連続して100万円を超えました。
- ・「箕面の森の守りびと」(山麓ファンドサポート会員)は258名(前年より58名増)となりました。
- ・阪急阪神未来のゆめ・まちプロジェクトや阪急電鉄(株)から、箕面の紅葉の保全と再生を目的に寄付を頂いた他、募金付き自動販売機、募金箱、市民イベントなどで募金をいただきました。 ※阪急箕面駅「もみじの足湯」募金185,114円(同プロジェクト及び阪急電鉄)

#### 4-2 NPO山麓委員会への募金活動

- ・「子どもたちに残したい！箕面の豊かな森づくり」をテーマに3,000円募金をしていただいた方に「箕面の自然と生き物」のDVDを進呈する活動を始めました。
- ・別途、ナラ枯れ被害対策を目的として324,752円の寄付をいただきました。



箕面の自然と生き物のDVD

### 5. 人材&活動組織の育成事業

#### 5-1 「みのお森の学校」の開催による人材育成

- ・人と自然の入門講座として10回講座に刷新した「みのお森の学校」、第11期生(2015年9月～2016年6月)は24人が受講、2016年9月から始まった第12期(2017年6月修了)は、現在18名が受講しており、今後、多様な分野での活躍が期待されています。

#### 5-2 「山麓学習(箕面の自然学習)」を担う人材の育成

- ・山麓学習を担う人材育成活動として、小学校の授業を手伝うスクールインタープリター養成入門講座(1日間の講義・実習)を10月に行い、4人が参加・修了しました。
- ・養成入門講座の修了生を加えて、箕面市内の中学校で年3回、活動を行いました。

#### 5-3 新たな市民ボランティア組織の立ち上げ支援

- ・新規の活動として、マミズクラゲの調査研究活動の立ち上げ支援を行いました。

### 6. 企画及び調査・研究事業

#### 6-1 ナラ枯れ被害の防止活動

- ・ナラ枯れ被害防止グループとして、行政(市・国・府など)との情報の共有化と協働の取り組みにより、GPSによる被害木の位置特定や応急処置を中心とした精力的な活動を行い、被害拡大防止に一定の成果が得られました。 ※枯死木:2014年377本、2015年530本、2016年468本
- ・枯死木データの作成(468本)、応急処置として防虫ネットの貼り付け(枯死木・健全木108本)を行い、教学の森やこもれびの森など39ヶ所のエリアの点検を行いました。
- ※2016年4月～2017年3月期間で延べ440人/日の活動

#### 6-2 「箕面の森林セラピー」の研究と人材育成

- ・森林の機能を活用した「こころとからだの健康増進」を目的とした森林セラピーの事業開発として研究会や研修会を行いました。
- ・林野庁の「森林ふれあい推進事業」に応募し、計3回(5・10月、3月)実施し、計37人が参加しました。
- ・一方、通常のマンスリーセラピーとしては17名の参加者となり、PR・広報力の不足や事業としての効率性の課題が残りました。



森のセラピーの様子

#### 6-3 生物多様性の保全に向けて

- ・明治の森箕面自然休養林管理運営協議会と連携して、生物多様性の保全に向けた活動として「人と自然の共生のための研究フォーラム」を11月3日に行い、69人が参加しました。

- ・年10回「生きもの会議」を開き、ホテルや生き物情報の交換や意見交換などを行いました。
- ※「生きもの会議」は、2017年4月に独立した団体になり、今後の活動が期待されます。

### 7. 「山麓ファンド」助成事務サポート事業

#### 7-1 助成申請の受付や活動促進など

- ・「山麓ファンド」の助成申請の広報、申請書の配布と受付、申請の相談などの山麓ファンド助成サポート事務を行いました。
- ※山林所有者への活動助成・・・16年度(2016年2月・2016年8月)74件、6,736,400円
- ※市民団体への活動助成・・・16年度(2016年2月・2016年8月)16件、2,274,000円

#### 7-2 助成事業の支援や進捗確認など

- ・山麓ファンド助成を受けた団体や山林所有者などの活動支援や進捗確認などを行いました。

#### 7-3 みのお山麓ファンド助成活動の報告交流会

- ・2016年6月に、助成を受けた14の市民団体やみのお森の学校の修了生など計39人が参加してみのお山麓保全ファンドの活動報告及び交流会を行いました。

## 8. 箕面ビジターセンター自然解説事業

### 8-1 自然解説活動

- ・2016年度は、土日・祝日を中心に、8月・11月の平日を含めて、年179人/日の自然解説員を配置し、ビジターの安心・安全のためのハイキングコースの案内や、植物や野鳥など、季節の自然情報の発信を行いました。
- ・年32回(上期19回・下期13回)、季節の自然に親しむ観察会や自然工作教室を開催し、年間685人の参加者がありました。
- ・5月に関西学院大阪インターナショナルスクールの小学4年生の校外学習を行った他、10月には、箕面森林ふれあい推進センター主催の箕面市豊川北小学校の小学4年生の校外学習に協力し、自然観察会や展示室の紹介、自然工作教室などを行いました。
- ・箕面ビジターセンターの展示室内で、季節に応じた各種の「企画展示」を行いました。
- ・年4回、自然情報誌「箕面ビジターセンターだより」を発行し配布しました。※2500部×4回＝10千部

### 8-2 PR・広報活動

- ・ホームページ「山なみネット」で、箕面ビジターセンターのイベント情報やブログ掲載など、情報発信や活動紹介を活発に行いました。

### 8-3 企画活動、PR・広報活動

- ・年6回の「友の会」(企画会議)を開催し、自然解説業務の企画検討を行いました。箕面ビジターセンターだよりや展示室企画、自然観察会、自然解説員の配置計画の検討などを行った他自然情報やビジターの安心・安全情報の共有化を図りました。

(注記)

※自然緑地等指定制度

自然緑地等指定制度は、山麓部の市街化調整区域内の一定規模以上の緑地(＝自然緑地)、または由緒ある樹木(＝保護樹木)や樹林(＝保護樹林)を、所有者の同意を得て指定し、所有者と協力して保全していこうとする制度です。(箕面市環境保全条例第47条)

※山林所有者への山麓ファンドの助成

箕面市環境保全条例により「自然緑地」として指定された山林において、その所有者が「里山の管理」を行う場合の助成金額は、土地登記簿面積あたり1㎡あたり25円と計算します。(上限25万円)

「自然緑地」指定の同意



2008年以降、31件の山林所有者が自然緑地指定に同意

自然緑地同意率 約50%

